

一般社団法人広島県中小企業診断協会 会報誌

新年度号
SUMMER

2021.8

令和3年8月

vol.

85

巻頭のことば（挨拶・祝辞）

TOPICS－通常総会報告

実務補習受講報告／新入会員紹介



経営コンサルタント唯一の国家資格「中小企業診断士」が
広島の中小企業の振興と地域経済の健全な発展のお手伝いをいたします



一般社団法人 広島県中小企業診断協会

www.hiro-smeca.jp

事業再構築を後方支援する 中小企業診断士

会長 江川 雅典



日頃より一般社団法人広島県中小企業診断協会の活動にご協力いただき、心より感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症の影響も2年目となり、様々な分野に疲弊が見受けられます。中小企業診断士の専門性が、今まさに必要とされている時期ではないかと考えているところです。

今回は、様々な困難に直面してもくじけることなく、果敢にチャレンジしている事業者の話を皆様にお伝えしようと思います。

事業者は個人事業で、建設設備設置工事を主たる事業で行っております。その中で、平成30年7月豪雨災害に巻き込まれてしまいます。厳しい困難を乗り越えていこうと、建設事業で培った土木技術を活用して、崩落地の復興に力を尽くしてきました。

ようやく落ち着きを取り戻し始めたころ、事業所兼家屋の漏電が原因で、火事が起きてしまいます。私はその日に、同じ地域の商工会でセミナー講師を務めるため、現地に赴いていました。たまたまその経営者の方と談笑している最中に、電話が入り、家が燃えているとのことで、大慌てで経営者の方が自宅に戻られました。

そこから一年、火事の影響を抱えつつ孤軍奮闘をしている最中に、新型コロナウイルス感染症が蔓延し始めます。火事の影響で、建設機械や各種の道具が無い中、レンタル等を駆使して少し軌道に乗り始めた矢先です。これまでに予定していた建設工事のキャンセルや縮小が打診され、経営そのものを抜本的に変革していく必要

性に追い込まれてしまいました。

まず取り組んだところは、ご自身の経験や得意分野・将来チャレンジしたい内容などのご自身の強みの確認と、想いの明確化でした。その言葉の中に、「災害地域の復興」「土木技術の活用」「様々な人的つながり」があり、『この地域をしっかりと盛り上げていきたい』という想いを聞かせていただきました。

そこで私が提案したのが、林業への進出です。私自身のこれまでの経験の中で、広島県の林業が進んでいないこと、海外からの木材輸入が難しくなっていること、高性能林業機械の開発で収益性が大きく変化していることを確認していました。

まずは経営計画をハッキリさせるために経営革新計画を立案し、必要な資格や最新設備の検討、収益性を考えていきました。その検討している最中に出てきた支援策が、事業再構築補助金です。現状からの打破を模索するには、一番の支援策であることを確認し、締切期限の1日前に電子申請を完了させ、結果として採択に至っています。

この新型コロナウイルス感染症を乗り越え、現状から打破するために中小企業診断士の能力は、大変有効であると考えております。

皆様のお力により、多くの事業者を支え、明日への活力につなげていくアドバイスになりますよう、今後ともよろしくお願いいたします。

危機を乗り越え、 再び確かな成長軌道へ

中国経済産業局 産業部 中小企業課長 浜本 幸男



一般社団法人広島県中小企業診断協会及び会員の皆様方におかれましては、平素から経済産業行政の推進にあたりまして多大なるご理解とご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

私は、昨年4月に中小企業課長に着任しましたが、この間、新型コロナウイルス感染症については、感染者数の増減を繰り返しており、依然として、我が国の経済は大きな陰りを見せております。また、地域経済活動への影響も極めて大きく、中小企業者の皆様にとっては、今後も感染リスクをコントロールしながらの厳しい経営が続いて行くものと考えております。

このような状況を踏まえ、経済産業省では、感染拡大により大きな影響を受けている事業者の方々への対応として、現在、影響緩和措置である月次支援金、資金繰り支援を強化するための実質無利子・無担保融資、そして生産性向上やアフターコロナに向けた新分野進出などの前向きな取組みを支援する事業再構築補助金など様々な支援を重点的に行っております。

未だ先行き不透明な状況ではありますが、引き続き事業者に寄り添った支援を積極的に行ってまいります。

さて、皆様ご存じのとおり、2021年版中小企業白書・小規模企業白書のテーマは、「危機を乗り越え、再び確かな成長軌道へ」です。

同白書では、感染症流行下においても、事業環境の変化に合わせ、新商品の開発や新事業分野

への進出など柔軟な対応ができている企業ほど回復が早く、今回の変化を転機と捉え、顧客のニーズや自社の強みに着目し、事業を見直すことが重要との分析がなされています。また、事業見直しのためには、まずは自らの財務状況を把握し、今後どのような経営戦略を立てていくかが重要であり、特にビジョンを明確にした経営計画を立て、日頃から事業環境の変化に合わせた見直しが求められています。

一方で、こうした取組みを中小企業者自らが対応していくのは困難です。そこで、中小企業の経営課題に対応するための診断・助言を行う専門家である中小企業診断士の役割がより一層、重要になってくると考えております。

広島県中小企業診断協会及び会員の皆様におかれましては、困難に立ち向かい、将来に向けて果敢にチャレンジしようとする事業者に寄り添っていただき、1社でも多くの事業者が「危機を乗り越え、再び確かな成長軌道」になるよう導いていただきますようお願い申し上げますとともに、貴会の今後益々のご発展と、会員の皆様方のご健勝を祈念いたしまして、私のメッセージいたします。

新年度の活動に向けて

広島県 商工労働局 経営革新課 課長 和田 徹



一般社団法人広島県中小企業診断協会の令和3年度通常総会を滞りなく終えられ、新年度の活動に取り組まれることを心からお慶び申し上げます。貴協会は、昭和34年の設立以来60年以上にわたり、国家資格である中小企業診断士相互の連携と資質の向上に努められ、本県の中小企業の発展や地域経済の振興に寄与されるとともに、昨年来のコロナ禍において、厳しい外部環境の中で業績悪化に苦慮する中小企業向けに商工団体や金融機関と連携して経営相談に対応されるなど、中小企業診断士の強みを生かした積極的な貢献をいただいておりますことに、厚くお礼を申し上げます。

本県経済の動向については、景気の基調は持ち直しのペースが鈍化しております。需要面では、個人消費はサービス消費を中心に下押し圧力が強まり持ち直しが一服しており、生産面では、持ち直しのペースが鈍化しており、雇用面では、労働需給、雇用者所得ともに弱い動きがみられます。景気の先行きは徐々に改善に向かうことが期待されますが、そのペースは緩やかなものにとどまるとみられ、今後とも、感染症が本県の経済情勢に与える影響を注視していく必要があります。こうした中、広島県では、新型コロナウイルス感染症の影響に係る経済対策について、厳しい状況下にある県内企業等の感染拡大収束までの事業継続と雇用維持をしっかりと支える短期的な取組みを行うとともに、ウィズ／アフターコロナ時代を見据えた中長期的な取組みを実施し、県経済の回復や安定的発展に向けて取り組むこととしております。また、欲張りなライフ

スタイルの実現を目指し、昨年10月に策定した「安心▷誇り▷挑戦 ひろしまビジョン」に基づき、イノベーション立県の実現やさらなる進化に向けて取り組んでまいります。

経営革新課においても、事業継続と雇用維持に向けた短期的取組みとして、これまで新型コロナウイルス感染症対応資金の創設、緊急対策販路開拓等支援補助事業の創設及び経営相談窓口の強化により支援してまいりました。コロナ禍が長期化する中で、収益の低迷が続く中小企業も多いことから、引き続き、本県経済の動向を注視しつつ制度の再開や強化に適時適切に取り組んでまいります。また、社会経済の変化に対応して生産性の向上や新事業への転換に取り組む中小企業が、国のものづくり補助金を活用して革新的サービス開発や試作品開発を行う場合に、県が、経営革新計画を承認することで補助事業の採択を支援するとともに計画的な事業実施を促進してまいります。引き続き、中小企業の経営相談や計画策定への皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

中小企業診断士は、中小企業の経営課題に対応する身近な専門家として経営の診断や助力を行うだけでなく、中小企業と行政を繋ぐパイプ役として中小企業施策の適切な活用支援等の幅広い活躍を期待されており、貴協会におかれても、国の指定法人として中小企業診断士制度の更なる発展にご尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員の皆様の益々のご発展とご健勝を祈念いたします。

令和 3 年度通常総会 報告

総務委員長 波出石 誠

令和 3 年 5 月 22 日（土）13 時より広島県情報プラザにおいて、
一般社団法人広島県中小企業診断協会の通常総会を開催した。
司会は西村英樹事務局長が行い、4 議案は異議なく承認可決された。

会議に先立ち江川雅典会長より、次のような挨拶があった。「今年度の総会は、5 月 16 日（日）広島県に新型コロナウイルスの緊急事態宣言が発出されたことにより、通常のカンファレンスができずリモート開催になってしまったことについてお詫び申し上げます。私が会長を拝命し 3 年を経過いたしました。1 年目は、豪雨災害、2 年目、3 年目は新型コロナウイルスと苦難がありました。しかし、この惨禍の中でも会員各位、各委員会、事務局の皆様から惜しみない援助をいただくと共に、お力をお借りしてここまで事業を進めることができました。改めてご尽力をいただいた皆様にお礼申し上げます。一方、このような現状においても、中小企業診断士は必要とされ、活躍の場は増えています。今後も皆様と共に地域活性化に取り組みたいと存じます。益々のお力添えをお願いいたします。」

続いて、現会員 186 名のうち出席者数は会場 2 名、リモート 24 名、表決権行使数は 108 名（委任状含む）となり、定款第 18 条に定める総会成立の要件を満たすことが確認され、江川雅典会長が議長に就任した。また、規定により議事録署名人に落野洋一氏、川角栄二氏が選任された。

総会では、次の 4 議案、議案①「令和 2 年度事業報告（案）、正味財産増減計算書（案）、貸借対照表（案）の承認について」、議案②「令和 3 年度事業計画（案）、正味財産増減予算書（案）」



江川会長による議事進行の様子
（広島県情報プラザ。リモート開催）

の承認について」、議案③「定款の変更（修正）について」、議案④「コンプライアンスについて」が上程され、質疑応答の後、全員異議なく承認可決された。議案④が承認可決されたことにより、今日、社会的課題であるコンプライアンスの取り組みについて強化されることになった。

総会閉会后、会員表彰が行われた。役員・委員 6 年在職者表彰では、黒川睦郎氏、20 年在籍者表彰では、西方康子氏、森坂満代氏が表彰された。

会員表彰の後、新入会員 5 名のうち、当日リモート出席の 3 名（田島寛司氏、大村真司氏、藤原孝則氏）が挨拶した。

令和3年度 役員・委員名

役員	代表理事 / 会長	江川 雅典		
	副会長	井上 明雄	大村 貞之	西原 州康
	専務理事	西村 英樹		
	理事	岡 佳弘	落野 洋一	川角 栄二
		黒川 睦郎	小寺 崇之	田辺 稔
		波出石 誠	松浦 和夫	松浦 由浩
		宮前 美方子		
	監事	岩井屋 忠昭	木村 武則	

顧問/相談役	顧問	藤田 武志・岸本 実	相談役	田村 善光
--------	----	------------	-----	-------

委 員	担当副会長	委 員 会	委 員 長	副委員長	委 員	
	西原 州康	総務委員会	波出石 誠	谷本 俊満	渡辺 敏明	中尾 友和
					児玉 忠則	松浦 和夫
					平田 里文	
		広報委員会	小寺 崇之	古川 佐千夫	青谷 智晃	三本木 至宏
					原 信之介	本庄 恭子
					丸田 稔	
	大村 貞之	試験委員会	落野 洋一	松浦 由浩 木村 義洋	岩井屋 忠昭	植田 昌子
					馬上 元彦	若井 匡弘
					牧野 恵美子	
		診断実務委員会	落野 洋一		野崎 義博	佐伯 昌之
					金河 哲也	金田 賢二
					塩田 睦大	中岡 朗
		更新研修委員会	宮前 美方子	弓掛 元 小地原 良樹	藤川 裕志	三宅 慶子
					森島 重樹	
	井上 明雄				会員研修委員会	川角 栄二
		鼠家 正則	野崎 義博			
		藤川 裕志	牧野 恵美子			
		グループ研究 委員会	岡 佳弘	黒川 睦郎 岩田 潤一	山口 卓	
					岡本 志朗	市岡 和美
					黒崎 崇貴	鉄本 一生
		品質保証委員会	西村 英樹 (兼)	松浦 和夫	宮前 美方子	野崎 義博
					黒川 睦郎	田辺 稔
					松浦 由浩	

事務局	事務局長	谷本 俊満	事務局主任	村戸 望佐
-----	------	-------	-------	-------

(R3. 5. 22 現在)

広島県中小企業診断協会ホームページ内 「研究会連絡窓口」のご案内

研究分野の専門性を活かした

経営
診断

助言

セミ
ナー

研修
会

ISO 研究会

販路開拓 研究会

建設業 研究会

資金繰り表 研究会

原価管理 研究会

事業承継 研究会

当協会のグループ研究会では、研究分野の専門性を活かした経営の診断や助言をはじめ、セミナー・研修会等を随時実施しております。

協会ホームページ上にグループ研究会へ直接連絡可能な「ご依頼・ご相談窓口」を設置しておりますので、お気軽にお問合せください。

www.hiro-smeca.jp

各研究会の研究内容・支援内容
についてはこちらをクリック！

グループ研究会へのご依頼・ご相談
研究分野の専門性を活かした
支援・セミナー等を実施します

(注) 報酬その他要件は、研究会「ご依頼・ご相談窓口」へ直接メールでお問合せください。

なお、ご依頼・ご相談にかかる一切の行為について、一般社団法人広島県中小企業診断協会は、何ら責任を負うものではありませんので予めご了承ください。

令和2年度 冬季実務補習 5日間コース 第3班 受講報告



実務補習受講生：綿谷 伸二、馬場 拓郎、齊喜 康博、
槇田 雄治、藤本 宏起（文責）

はじめに

令和3年2月5日から2月15日まで、井上明雄先生の指導のもと、金融機関勤務、商社勤務、製造業勤務等の多彩なメンバーにて中小企

業診断士の実務補習に取り組んだ。ほぼ全員が実務補習参加は初めての参加であった。また、年齢も30代から60代と幅広い年代であった。

診断先企業の概要

診断先企業は広島市内の水産加工食品卸売業であった。昭和40年代に先代が鮮魚店から創業し、現社長が20年ほど前に引継ぎ、現在の経営基盤を確立させた。「地元で愛されるオンリーワンの企業になりたい」という経営理念のもと、社

長の卓越したリーダーシップ、水産加工の高い技術力、安定した販売先等の強みを有していた。しかし、コロナ渦の影響もあり、社会環境が大きく変貌したため、水産加工食品卸業者から水産食品加工メーカーへの飛躍を図っていた。

現状の課題

このため、メーカーに飛躍するうえでの課題整理が重要なテーマとなっていた。また、その過程において、水産加工の技術を生かしきるため

の生産能力の拡充、安定販売先への依存からの脱却等をも対応する必要があった。

今後の方向性と改善提案

（1）経営戦略

メーカーへの飛躍および売上強化を行うため、経営計画書を策定し、課題整理を行うことを提案した。

（2）財務管理

本業における収益性の向上、有形固定資産の効率性向上等のために、商品別利益貢献度の分析、製造原価報告書の作成準備、新事業の投資効果測定等を行うことを提案した。

（３）生産管理

①衛生管理体制の確立、②生産能力拡充を見据えた余剰資源の確保、③加工時の品質データの活用のため、①広島県食品自主衛生管理認証制度取得による衛生管理の差別化、②生産性向上のための自動化の事前検討の推進、③品質データの有効活用による持続可能な仕入先の確保等を提案した。

（４）商品企画

販売先との共同商品の開発、自社ブランドの商品開発、高級スーパーのPB商品の開発のた

めの、各種具体的な商品案を提案した。

（５）事業持続力強化

資金調達手段の確保、重要情報の保護、取引先との関係性強化等のため、融資制度・補助金の確認、全体的な情報の保護、取引先とのルールの取決め、事業継続力強化計画の策定等を提案した。

実務補習後の所感

当診断企業の実務補習の受け入れに関しては、忙しいさなかではあったが十分時間をとってヒアリングさせていただくとともに、社長には前向きに自らの意見を熱く語っていただいた。

また、水産加工業界の全体の現状や、今後の課題についても広い視野や専門的な知見を交えて伺うことができた。伺った意見を総合的に検討しても、経営戦略的な方向性については社長がしっかりとした意見をお持ちであったため、実務補習において大変参考になった。

このヒアリングした内容と、各種、需給資料、財務資料を基に現状の確認・整理をし、課題の整理・補足・改善提案を打ち出した。

課題の整理等においては各担当者が資料収集し、独自の着眼点で報告書を作成し、それに班内で意見交換を交えてブラッシュアップした。このため、個性的でまとまりのある報告書が作成できたと思っている。

また、今回初めて井上先生の力を借りながら事業継続力強化計画を提案してみたが、社長も

この提案に非常に喜ばれており、今後の実務補習において、継続的に取り上げてほしい分野であると感じられた。

報告会において、現状を改めて整理し、確認いただいたうえ、改善に向けて各実習生から改善提案をお伝えした。社長からは、自らの考えが間違っていなかったこと、課題を整理できたことについて感謝の気持ちをいただき、光栄でありやりがいを感じた。

私自身感じたことは、相手はその業界の経営のプロであり、その相手に対して喜ばれる報告書の作成がどれほど大変なことか身に染みて分かった。また、そのためには、診断士として不断の自己研鑽と、診断先に学ばせていただく素直な姿勢が必要であると感じた。

最後に、業務多忙の中、当班の実務補習にご協力いただいた診断先企業、的確かつ真摯なご指導をいただいた井上先生、立派な報告書に仕上げていただいた班員の皆様に感謝し、心よりお礼を申し上げる。



令和3年度 夏期実務補習 5日間コース 第2班 受講報告

実務補習受講生：麻木 周太郎、石尾 高弘、久保 晋作、
西坂 章、高野 光司（文責）

はじめに

中小企業診断士の田村善光先生のご指導のもと7月2日～12日までの実務補習を円滑に修了することができた。第2班の受講生は金融、製

造業、公務員の出身者5名で初回～3度目の受講であり、20代から筆者50代と幅広い年齢層であった。筆者は初めての実務補習であった。

診断先企業の概要

飲食業の中小企業者で新型コロナウイルス感染症流行のさなか売上げが低下し、収益性が悪化した状況にあった。経営者が高齢化して後継

者候補がおられ、新規出店や事業承継に関する助言希望があった。

実務補習の状況

開講日の約1週間前に診断先の企業情報と助言希望内容がメール送付され、受講者の要望案に基づいて経営戦略（班長）、財務、人事・労務、営業・販売の役割分担を先生が決められた。筆者は班長を拝命し、事前学習では業界動向、財務、組織等の経営環境分析を行い、仮説を立てて最終提言の方向性をイメージしながら初日の経営者ヒアリングの内容をまとめた。

研修初日に班員全員で企業の経営実態とヒアリングポイントを整理・共有化し、経営者ヒアリングに臨んだ。2時間以上のヒアリングで経営者のお考えを引き出し、その後に追加質問や追加の資料もいただいた。全員でブレインストーミングを行ってSWOT分析を実施し、経営課題案を抽出した。最初は主観的な議論を展開しがちであったが、途中、先生から何度も客観的データに基づく解析・議論を求められた。この時点で外部

環境分析の事前学習不足の反省点に気付いた。プロは事前に徹底した経営環境分析を行ってヒアリング時には経営者の僅かな表情の変化も見逃さずに経営者を診るものだとご指導が入った。

2日目には診断先の飲食店にて覆面で昼食をとり、QSCA（quality:料理の品質, service:サービス, cleanliness:清潔・清掃, atmosphere:雰囲気）をチェックし、6人のアンケート・意見をまとめた。それまでの外部、内部環境分析の結果からなんとか経営課題と方向性を仮設定し、各自の約1週間の自主学習のワーク内容を決めた。

自主学習期間に入って外部環境の追加分析で仮説を検証すると、一部ロジックに矛盾があることを先生に指摘された。ネットで再調査を行って一部ロジックの再構築を行った。現在のネットは便利なもので、メール、LINE、Dropboxで班員や先生と効率的に議論・情報の共有化を図

ることができる。この間、各班員は夜にワークを行って先生に2回以上も報告書案のチェックをお願いし、先生のチェックは時には深夜になることもあった。班員の頑張りや先生のご指導のお陰で自主学習期間中になんとか矛盾がなく整合性のとれた経営診断報告の概要を仕上げることもできた。

自主学習期間が終わり、4日目の午前中には各自の報告書間で整合性をチェックしながら全体の最適調整を行い、午後には経営診断報告書全体案にまとめあげた。5日目には経営診断報告書案をベースにプレゼンテーションの事前練習を実施して矛盾を再チェックし、午後には報告書を完成させて印刷・製本化した。順調に仕上げることもできたので、17時と早めに解散すること

ができ、各自で原稿を作って入念にプレゼンテーションの練習時間がとれた。

最終日に経営者へ経営改善提言・経営革新提言を行った。経営者の表情の変化やリアクションに合わせて各自がプレゼンテーションすることができた。経営者から事業承継方法や新たな営業・販売の提案等に興味を持っていただいた一方、ターゲット層（成長ゾーン、ボリュームゾーン）、立地条件等の詳細な根拠のご質問も受け、外部環境分析（深掘りしたマーケティングのデータ採取）の重要性を再認識させられた。経営者から調査や新たな視点・提言等に対して感謝され、従業員と共に本報告書で勉強会を行いたいとの評価をいただいた。

所感

実務補習は異業種交流でもあり、異なる文化、考え方に触れることができ、非常に良い経験になる。班員メンバーの優秀さに刺激を受け、筆者は班長として非常に助けられた。筆者も含めて班員の役割分担は個人の要望とは異なっていたが、先生の役割分担の人事は適材適所であったと最後に改めて感心させられた。本ワークを通じて世の中の事業承継のニーズの高さやDX化の重要性が伺われ、筆者も班員の調査・説明を横から聞いて大変勉強になった。

先生からはコンサルタント実務におけるデータや根拠の重要性を研修中何度も言われ、班員全員が目から鱗が落ちる思いであった。短い研

修期間内で納得のいく深掘りした調査・解析まではできなかったが、本診断手法の体得は今後非常に役に立つものである。先生からは午前0時過ぎや午前5時と言う具合に深夜のご指導メールが度々あり、70歳超とは思えぬパワフルさに圧倒された。また、中小企業診断士はAI時代でも生き残り易い資格であるが、AIで対応できない新しいアイデアや発想で提言する必要があることも力説された。筆者は理系出身であり、人生100年時代の生き方を先取りしている技術系で弁理士と技術士でもある先生を間近に見て、メンターとしても大変参考になった。

御礼

最後に、新型コロナウイルス感染症流行の中、田村先生をはじめ、ご準備、ご指導、ご鞭撻をいただいた広島県中小企業診断協会の皆様には本当に感謝申し上げます。また、この大変な最中に実務補習を引き受けていただいた診断先の社長や従業員の方々にも御礼申し上げます。一致団結し

て今回の研修に取り組んだ班員メンバーにも感謝している。お陰で安心して円滑に受講することができ、大変充実した有意義な研修になった。今後の実務補習を楽しみにし、診断士登録後は今回の経験やネットワークを活かして、地域社会の貢献に是非とも役立てていきたい。

随筆・見聞録

広島南アルプス縦走記

中小企業診断士 青谷 智晃



市街地周辺でアルプス登山並の山行が楽しめる。これも知られざる広島の貴重な資源

広島平野の西側に南北に伸びる山塊がある。海まで続く長い山容が南アルプスに似ているからか、いつの頃からか「広島南アルプス」と呼ばれ、一部マニアから親しまれている。これを1日で縦走することが私の目標の1つであり、実は先日、これを達成したのだが、私の自慢話を聞いてくれる相手が誰もいない。そんな時、本稿を書く機会を与えられたので、紙面を私の山行記で埋めてしまうこととする。

始発の可部線で6:41 あき亀山駅着。太田川の対岸へ渡ってまだ薄暗い阿武山登山口から、まずは北阿武山を目指す。いきなり岩場の急登。ほとんど人が通らない道なき道、標高差500mを一気に上がる。7:59 北阿武山(534m)を通過して薄暗い林の中の道をひたすら南進する。いくつかの急勾配を這うように登り、8:22 阿武山(586m)着。眼下に雲海が広がる。整備された道を一気に駆け下りて勢いのまま登り返すと、権現山(397m)8:46着。眼下に毘沙門台の団地から広島平野を一望できる。

下山途中で毘沙門天にご挨拶して、大町まで下る。大町郵便局先の登山口から9:19 再び山道へ。カガラ山(212m)に寄って、武田山へのきつい登り。10:01 武田山(411m)着。山頂から下って、火山山頂までの登り返しも長くて急な登り。前半の難所。息を切らせて10:37 火山の山頂(488m)へ。ここからは穏やかなアップダウンの連続す

る気持ちのよい尾根道。眼下には左側に春日野、右側に西風新都の町が見え隠れ。石山(415m)、丸山(458m)といったピークを通り過ぎ、畑峠で車道を越え、大茶臼山(413m)11:36着。海がかなり近づいてくる。己斐峠に下りて峠近くのコンビニで昼休憩。駐車場の地べたでカップラーメンを啜る。ビールは我慢。まだ時間も体力も余裕有り。14:01 登山を再開し柚木城山(339m)へ。14:24着。きつい登りではないはずだが、疲労でペースが落ち始める。見越山(315m)を通過し、草津沼田道路を超えて鬼ヶ城山(282m)15:10着。想定時間より遅れはじめ、足が上がりなくなってくる。鈴が峰東峰への登り返しの急登はふらふらになりながら力を振り絞る。鈴が峰東峰(312m)15:32着。日がだいぶ傾いてきた。眺望を楽しむ余裕もなく、日没時間との競争で、最後のピーク鈴が峰西峰(320m)へ急ぎ、八幡東の登山口まで下りてゴール。16:06着。もはや一歩も歩けず、歩道に20分ほどへたり込む。我に返ってタクシーを呼び、五日市「ほの湯」まで。ビールを飲んで、温泉に入って、サウナに入って、またビールを飲んでという至福の時を過ごして、充実の1日を締める。

移動距離33.29km、登った標高の合計2,459m。県外に出なくても、市街地周辺でアルプス登山並の山行が楽しめる。これも知られざる広島の貴重な資源。



書 評

中小企業診断士
伊垣 洋介



幸福学×経営学

次世代日本型組織が
世界を変える

著 者：前野 隆司ほか

出版社：日経 BP 社

発行日：2018/5/27

価 格：1,650 円（税込）

“社員が幸せになるほど組織全体が強くなり、会社の業績が向上する”

「自分たちは何者で、どこへ進むのか」といった
自らの存在の本質を掘り下げ認識する必要がある

本書はこれからの経営のあり方を捉え直す事がテーマであり、「会社は利益確保が第一」と考えている経営者・経営/人事コンサルタントの方々に新しい発見をもたらしてくれる点でお勧めできる1冊である。

本書を読む前は、「会社が儲からなければ、社員を幸せに出来ない」と思っていたが、本書を読み進めていくうちに、「社員が幸せになるほど組織全体が強くなり、会社の業績が向上する」という読む前とは逆の因果関係が成立する事が分かり、新しい発見をもたらしてくれた。

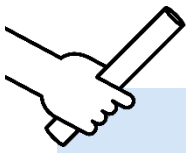
著者の一人である慶應義塾大学大学院の前野隆司教授は幸福学の第一人者であり、幸福学を「工学者らしいアプローチ」で誰もが実際に活用でき、人の役に立つ実践的な学問にしたいという考えの基、幸せのメカニズムを体系化している。人生の幸せは「4つの因子」を満たすことによって得られるというのが幸せのメカニズムのポイントであり、その活かし方については、経営者やコンサルタント以外の方にも読み進めていただきたい。

本書では、社員の幸せを追求しながら、会社の業績も伸ばしている複数の企業の取り組みと考え方を紹介しており、これら「ホワイト企業（良い会社）」の経営にどのような原理や特性が働いているかを分析し、これからの経営学に向けた4つのヒントを示している。

この4つのヒントでインパクトがあったのが「自覚」である。自覚は、「自分たちは何者で、どこへ進むのか」といった自らの存在の本質を掘り下げ認識する必要がある。重要性が強調されるイノベーション（innovation）は、語源をたどると「in（中に）+nova（新しくする）」であり、存在の本質を掘り下げ原点に立ち返ることは、内部から湧き上がる使命感に繋がり、企業内部の見方、考え方、あり方の刷新が合意される等のイノベーションが生まれるきっかけになると書かれており、単なる技術革新ではない広義のイノベーションのヒントになると思う。

最後に、本書を読めば、経営方針や組織運営に「社員の幸せ」という視点を取り入れる良いきっかけになると思う。非常に有益な本を世に出していただき、心より感謝している。

診断士リレー訪問記



てつもと いっせい
中小企業診断士 鉄本 一生



たなだ ゆうさく
中小企業診断士 棚田 勇作 氏



今回は、福山市で独立診断士として活躍されている、棚田さんをご紹介します。
棚田さんとは、事業承継研究会で一緒にしています。物腰も柔らかかでとても話しやすいのですが、勉強熱心で内にある熱い部分も感じさせてくれる方です。私と年齢も近くいつも刺激を与えてくれる方なので今回改めてお話を伺いました。



“東南アジア事業アドバイザーとして、海外事業や事業部の立ち上げを支援”
瀬戸内一円の企業のグローバル化支援を通じた地域活性化をビジョンにしています

Q: 棚田さんは今どのようなお仕事をされているのか教えてください。

A: 今年から独立し、2つの肩書をもって仕事をしています。まずは東南アジア事業アドバイザーとして、海外事業や事業部の立ち上げ支援をしています。

もうひとつは中小企業診断士として、補助金申請の支援などをしています。

昨年末までは大手電機メーカー勤めで社員が多い職場だったのですが、独立してたまに寂しさを感じるがあります。

Q: 診断士を目指そうと思ったきっかけは何ですか？

A: ビジネスマンとして能力を高めたかったためです。当初は横文字でカッコいいし MBA を取得したかったのですが、費用面で躊躇しました。調べているなかで中小企業診断士も国家資格だからカッコいいな、しかもえらく安いなと思ったことがきっかけです。

Q: 棚田さんのご自身の強みや活かしていこうと思うことは何ですか？

A: 製薬会社と電機メーカーと、事業会社の営業畑出身であることが強みです。海外事業経験や知見の広さでは JETRO などの公的機関や都会の海外事業系コンサルタントの方々にはとてもかなわないと思っています。事業会社で海外事業を立ち上げてきた経験から実務遂行能力が高い

ので、コンサルタントながらも外部からではなく、支援企業の中に入り込んで主体的に海外事業立ち上げ代行サービスをしています。

公的機関やコンサルタントにやり方を聞いても、具体的にどうやって手足を動かせばいいかわからない、話し方がわからない、分かったとしても既存事業に手一杯で時間がとれない、というような企業課題の解決をしています。

Q：今後の活動のビジョンや方向性、夢など思い描いていらっしゃることを教えてください。

A：瀬戸内一円の企業のグローバル化支援を通じた地域活性化をビジョンにしています。海外事

業にトライしたいけど、新たに人を雇用するほどの余裕がないというような企業を年間で3社ずつ、むこう10年間で30社、のご支援ができればビジョン実現に近づくかなと考えています。

また、海外進出したけどうまくいっていない、現地拠点の交代人材を育てられない、といった課題も多く聞かれますので、支援していきます。さらに地域の商工会議所などの活動にも積極的に参画して、経営者の方々のグローバル化意識を醸成できるような情報を発信していこうと思っています。

新 入 会 員 紹 介

正 会 員

伊藤 大介（いとう だいすけ）



この度、広島県中小企業診断協会に入会しました。2020年度試験合格、2021年5月登録です。

元々はシステムエンジニアとして業務系システムの設計構築をやっていましたが、勤めていた会

社の経営破綻をきっかけとして起業し、紆余曲折を経て現在はITコンサルティングを主な仕事としています。

IT導入というと、導入自体が目的化したり、全体戦略と乖離した部分最適に陥ったりといった場合も少なくありません。また、そもそも全体戦略自体が不明確だったり、ITコンサルタントに対して説明する必要はないと経営者に思われている場合もあります。そこから一歩踏み込ん

でIT活用の効果を最大化させるために、経営レベルの知識と肩書が欲しいと考え中小企業診断士を取得しました。

今後は全体戦略の立案と遂行を支援できる経営コンサルタントを目指しています。支援する企業とそこで働く人が幸福になり、ボトムアップで世の中が良くなれば嬉しいです。そのために会員の皆様からご指導いただいたり、情報の共有ができたらと考えて入会しました。コロナ禍ではありますが、積極的に交流させていただけたらと思いますのでよろしくお願いします。

後で読み返して初心を思い出せるように、敢えて気張って書きました。趣味は長距離走でしたが、最近は育児に追われて何もしていません。好物は炭水化物全般で、血液検査の悪玉コレステロール値が非常に気になる43歳です。よろしくお願いします！

正会員 大村 真司（おおむら しんじ）



大村真司と申します。
昨春秋の実務補習終了後、11月に中小企業診断士登録をさせていただきましたが、少し遅れて、協会に入会させていただきました。

2000年登録の弁護士で、広島市中区八丁堀のYMCA隣のセブンイレブンのビルで、2011年から大村法律事務所を開業しております。

同じく弁護士の青谷会員とは1期違いで、事務所もごく近くなります。

これまで、個人の業務を中心に弁護士業務をやっておりますが（一般民事・家事の他、医療過誤や欠陥住宅など、専門分野の事件も手が

けています）、経営サポートも含めた中小企業支援も行っていきたいと考え、中小企業診断士資格を取得しました。その他の国家資格としては宅地建物取引士があります。

民間団体の日本キャッシュフローコーチ協会にも所属しております。

今後、経営面のアドバイスを行うとともに、企業の身近にすることで、企業自身では気付けない法律問題についてもフォローして行ければと思っています。

協会において、様々な研鑽を積ませていただくとともに、会員の皆様と連携できる関係を築いていきたいと考えておりますので、これからよろしくお願いいたします。

正会員 佐伯 隆（さいき たかし）



このたび、広島中小企業診断士に入会しました、佐伯隆と申します。出身は山口県新南陽市で、広島カープの津田投手が生まれた町です。現在は広島市に在住しています。大学を卒業

後、家電メーカーの販売会社に就職して、ルート営業、広島の家電量販店の本部商談、中四国エリアでの商品推進、支店マネジメント、役職定年後は、商品推進、販路推進を担当し、現在は卸売販路の営業をしています。メーカー販売会社の営業・マーケティング担当なので、どちらかという

と商品の強みを前面に出した一方的な営業スタイルが多かったように思います。そういう環境の中で、相手企業に応じた課題解決提案ができるようにと、45歳の時に診断士の試験を目指しましたが、日々の仕事に追われ、中途半端になって一旦諦めました。役職定年後の55歳の時、今後の自分の人生を考えて、やり残したこと、やりたいことを考えて、再度試験にチャレンジし、3年目でやっと合格ができました。

自分の中小企業診断士像としては、まずは、誠意・熱意・創意、そして謝意を重んじて、人として信頼していただけるような人間であること、活動としては、お客様目線で寄り添い、問題点や

課題、解決策を一緒に考えていき、経営者の方の思いを実現することを理念に活動していけたらと考えます。

まだ試験に合格したばかりで、実際に自分に何ができるのか、模索している状況ですが、先輩先生方からご指導いただきながら、ひとつひとつ

経験を積み、中小企業の経営者、従業員の方に役立てる診断士となるように一生懸命頑張っていきたいと思います。会社の兼業申請も通り、しばらくは2足のわらじで進めていきます。

皆様にはご指導ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

正会員

渡部 宗広（わたなべ もとひろ）



令和2年に中小企業診断士に登録し、令和3年度より広島県中小企業診断協会に入会させていただきました渡部宗広と申します。広島県廿日市市に生まれ、大学時代を北海道で過

ごしました。就職を機に広島に戻ったのちは広島市内の建設コンサルタント会社に営業企画職として入社し、今年で勤続10年を迎えました。

私が幼い頃、私の父は脱サラして起業しました。小さな会社でしたが、雨の日も風の日も、朝早くから夜遅くまで、仕事に奔走する父の背中を見て育ちました。父は高齢になりすでに会社

をたたみましたが、そばにいた私は企業の誕生から終息まで様々なストーリーを見てきました。企業は「生き物」と言われることがありますが、企業が生きるには常に変化が必要で、そこには沢山のドラマが生まれます。私はこのドラマに魅力を感じ、「企業経営」に関心を持つようになりました。これが、私が中小企業診断士の取得を目指したきっかけです。

故郷・広島で診断士として活動できることにわくわくしています。志高く情熱あふれる企業の支援をとおして、地域発展の一助になりたいと考えています。今後も研鑽に励んでいきますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

New Member



よろしくお願い致します

アントレプレナー事務所レポート

中小企業診断士 金河 哲成



私は令和元年に中小企業診断士の資格を取得し診断業務を行っているが、平成 25 年に「金河不動産鑑定士事務所」として不動産鑑定業を始めたのが独立開業の出発点となった。

不動産鑑定士の主な業務としては、毎年 3 月頃に発表される「地価公示」、7 月頃に発表される「相続税路線価」、9 月頃に発表される「都道府県地価調査」といった公的機関から依頼される不動産鑑定業務がある。他には弁護士の先生からの依頼で、遺産分割にあたっての鑑定評価や税理士の先生からの依頼で関係会社間の不動産売買にあたっての鑑定評価など、様々な依頼目的で鑑定評価を行っている。最近では M&A にあたっての不動産の鑑定も増えてきている。

このような不動産鑑定業務に加え、中小企業の事業計画書の作成や商工会での窓口相談業務といった診断業務も行いながら日々活動している。なお、令和 2 年に法人を譲ってもらい、現在は「有限会社エム・ピー・エス総研」として鑑定業務と診断業務を行っている。

①中小企業診断士取得のきっかけ

中小企業診断士の資格を取得しようとしたきっかけはいくつかあるが、1 つは自らのコンサルティング能力の向上がある。

不動産の鑑定評価においては、過去や現在の情報を収集し、現時点の価格や賃料を査定することが多く、3 年後や 5 年後といった未来時点の鑑定評価を求められることはほとんどない。

それに対して診断業務においては、過去や現在の情報から、不確実な未来に向けた助言やコンサルティングを行い、課題や問題点の解決を行う。このような未来志向のコンサルティング能力を不動産の分野においても活用したいと思い、中小企業診断士の資格を取得し、その能力を向上すべく研鑽している。

②今後の活動内容

政策的な追い風もあり企業の M&A は今後も活発になると思われるが、中小企業診断士と不動産鑑定士の保有者として、この分野で活動ができればと考えている。

不動産鑑定士として M&A にあたっての不動産の鑑定評価を行うこともあるが、時価の算定だけでなく、保有不動産の有効活用や処分すべき不動産の判断といった「経営と不動産」という面から企業のサポートをしていきたい。

また、中小企業診断士と不動産鑑定士のダブルライセンスを活かした独自の業務を構築できるように色々と模索し、様々なチャレンジをしていきたいと思っている。

ISO研究会

代表 栗山 琢次

ISO 研究会では、ISO の認証取得を目指す企業、または認証取得したが経營業績に有効に機能していない企業、組織的で継続的な改善のニーズのある企業に対する支援に生かせる効果的なツール作りに取り組み、支援実務での活用をすすめている。令和3年度も継続した計画とする。



【メンバー】

砂口 たくし、宮前 美方子、野崎 義博、栗山 琢次

活動のねらい

中小企業の経営管理（計画・改善のプロセスを回す）のレベルアップ支援で重要なこととして、

① プロセスアプローチの手法を活用する

多岐にわたる業種特有のプロセスを理解し、企業と一体的な活動を進める上でキーとなる活動のプロセスを具体的に把握、理解した上で支援することが極めて重要で、一歩踏み込んだ核心に迫れるマニュアル作りを目指す。

会員の得意領域での事例の共有、発展につなげる。

② プロジェクトマネジメントの手法を活用する

組織的で計画的な改善を根付かせる上でパフォーマンス評価をベースとした PDCA を回す。中小企業にも取り組みやすい実践的なツール作りを目指す。

支援業務での事例（成功・失敗）の共有。

活動の進め方

- ① 定例ミーティングは、2ヶ月に1回（土曜日午前中）で指導マニュアルの検討・策定、企業への支援計画策定、活動実績の整理等を行い、まとめていく。
- ② 関連書籍の自由な勉強、まとめ、ズーム会議での発表を組み込み、レベルアップを図る。
- ③ 中小企業、ISO 審査機関からの問い合わせ、支援要請へは対応していく。

企業内診断士診断能力向上研究会

研究会広報担当 黒崎 崇貴

企業内診断士診断能力向上研究会（企業内診断士の会）では、

- ・ 企業内診断士の企業診断等にかかる能力の向上（研鑽）
- ・ 中小企業経営の改善・革新の支援（貢献）
- ・ 診断士の活動に必要なネットワーク作り（連携）



を目的として、活動に取り組んでいる。

会員数については、11年目を迎える今年度は、35名（7月時点）となっている。

今年度の活動計画は、毎月第3土曜日に月例会合を開催し、会員それぞれがグループ研究、個人研究を行い、発表を行っていく（月例会合は、新型コロナウイルス感染症拡大防止等の観点から、当面、Webオンライン形式で開催している）。

また、会員からの紹介や協会本部の「企業内診断士におけるプロボノ活動の支援に向けた実証実験事業」等による実務診断にも積極的に取り組んでいく（協会本部の実証実験事業は2件実施済で、7月時点では3件目の取組みを準備中である）。

なお、例年は、理論政策更新研修後に当研究会会員以外の方にもご参加いただける交流会を開催しているが、7月については、新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者を会員に限定したWebオンライン形式で開催した。8月以降については、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、より多くの方に参加していただける形式での開催を検討する。

海外展開支援研究会

代表 平見 尚隆

本研究会は中小企業の国際化を支援することを目的とし研究活動を続けてきている。少子高齢化が続いている日本国内においてはコロナ問題発生以前から、採用の面での雇用が悪化していた。これに対する一つの対応策として、優秀な外国人に積極的に国内の大学へ留学していただき、その後、日本国内で企業の活動を支えてもらうという方針が出されている（例えば、留学生30万人計画）。これに伴い、外国人の就労に関して在留資格の幅が広がってきている。一方、実際の留学生の日本企業への就職、定着数は留学生全体の3割程度で思うように進んでいないのが実情である。地方の中小企業への就職となるとさらに難しくなる。このような状況において、中小企業の国際化と人材確保の観点から「外国人留学生の地場企業への就職促進」に取り組んできた。

この活動の一環として、昨年の8月に広島県と広島市が共催している「ひろしまIT融合フォーラム研究会」の企画提案助成へ応募、採択された。その後、約半年にわたり、本研究会のメンバーが中心となり、広島大学、広大発就職関連ベンチャー企業（AT ONE）、広島県内のIT関連企業から成るタスクチームを構成し、研究会活動を行った。この間、外国人留学生と中小企業をマッチングする手法のIT化を考案し、実証研究を行った。その結果を本年3月9日の「ひろしまIT融合フォーラム：IT融合研究会成果発表会」にて報告し、本研究会のタスク活動を成功裏に終えている。今後は、この就職に関するテーマの追跡調査と、マッチング手法の他目的への適用を考えていきたい。



定例ミーティング(オンライン)



定例ミーティング(広島大学東千田キャンパス)

オンライン成果発表会
(於：広島市 CAMPS)

ニューロビジネス研究会

代表 西村 英樹

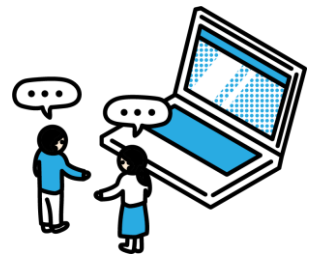
当研究会は診断協会会員だけではなく、AIに関心を持つ中小企業経営者（ユーザ、ベンダー）もメンバーに加え、中小製造業が抱える経営課題について、AIの具体的な活用方法についての調査研究を行っている。



昨年度は、新型コロナの感染拡大に伴い毎月の研究会はリモート開催となったが、毎回10名以上の参加により活発な研究活動を行った。

野生動物から農作物の被害を防ぐ方法について、AIにより監視カメラで野生動物を識別し、自動走行ロボット車で敷地外に追い出す方法を検討したが、その場で各分野の専門家から適切なアドバイスが得られスピーディに課題解決が行われた。異業種連携の醍醐味を実感する瞬間でもあった。

製造現場等でのAI利用も増え、AIはIoT、ロボティクスも含めたデジタルトランスフォーメーション（以下DX）を構成する重要な要素となっている。DX全体の機能を最大限に発揮させるには各要素に精通した専門家グループでの課題検討が不可欠であり、正に当研究会の取組み方法であると感じた。



今年度からIoT研究会のメンバーも加え、DX時代に応じた幅広い研究を行っていく予定である。

なお、新型コロナの感染が沈静化するまでは当面リモートによる研究会活動を行う予定である。

企業再生実践研究会

代表 岩本 亨

コロナ禍で業績が悪化し、資金繰り対策のためにコロナ対策融資（いわゆるゼロゼロ融資）を受けた企業が数多く存在します。優先弁済の条件付きながら、返済据置き期間が最長5年という設定になっていましたが、半年～1年程度しか設定していない企業が多いように見受けられます。返済開始が迫る中、足元の業績が回復しないため、当該企業も、貸付けた金融機関も対応に苦慮しています。



このような状況に陥っている経営者から、中小企業診断士に相談を持ち掛けられることが、今後増加するものと予想されます。その時にどのように対応すれば良いか？一概には言えないものの、基本的な選択肢は知識として持っておく必要があるのではないのでしょうか。

企業再生実践研究会は、上述のようなケースも含め、経営状態が悪化している企業に対して、経営改善型の自主再建を基本として支援ができるように、知識・スキルを習得する目的で設立された研究会です。

現状は10名ほどの会員で、原則偶数月の第一土曜日に定例会を設定して活動しています。

令和3年度前半は基本的な知識習得を目的に活動します。金融検定協会「事業再生アドバイザー認定試験（TAA）」対応講座のテキスト（4冊）を活用しています。年度後半については、実際の案件相談にも対応できるよう活動をしていきたいと考えています。ご興味のある方は以下までご連絡ください。



問い合わせ先

iwamototooru@gmail.com

カープを科学する研究会

代表 西村 英樹

活 動 目 的

リーグ3連覇を達成したカープ球団は、個性あふれる選手の活躍やBBQも楽しめるユニークな球場、カープ女子をはじめとするファンの広がり等により、ここ数年世間の注目を集めている。華々しい選手の活躍やマスコミ報道の裏には、豊富な経営資源を有する他球団には無い地方球団としての知恵を使った球団経営があることを忘れてはいけない。

独自の歩みを進めるカープ球団を中小企業診断士の立場から科学的に研究し、ファンを魅了し応援したくなる秘密に迫りたい。研究成果は地域における中小企業経営支援に役立てて行きたいと考える。

活 動 計 画

(1) 個人研究

会員がそれぞれ関心を有するテーマについて調査研究を行い、その結果を研究会で発表する。テーマによっては、グループ研究も行う事とする。

(2) 全体研究

プロ野球選手等のデュアルキャリア支援、野球中継を見ながらの戦力分析等。

(3) 情報発信

研究成果は、診断協会内で共有するとともに外部に対しても積極的に情報発信を行う。

(4) 会合場所等

会合は毎月1回広島市内、福山市にて実施予定。

新型コロナウイルス感染拡大中はリモートにて実施する。

研究会メンバー

伊藤 圭介	江川 雅典	大村 貞之	木村 武則
塩田 睦大	西村 英樹	古川 佐千夫	藤川 裕志
牧野 恵美子	森島 重樹	綿谷 伸二	渡辺 敏明

NEW

地域活性化研究会

代表 児玉 忠則

2020年12月広島県中小企業診断協会の認定をいただき、
新たに「地域活性化研究会」を立ち上げました。



日本再興には人口及び企業の大半を占める地方の復活が不可欠ですが、人口減少・少子高齢社会が急速に進展する地域の衰退基調は我が国の重要問題として、誰かが歯止めをかけるべきですが、それには地域内の中小企業に多く関わる中小企業診断士こそが、社会的リーダーシップを発揮しうる立場にあり、地域社会が希求する専門家としての知見・行動力が期待される診断士としての役割発揮に向けたアクションを今こそと考へて2020年12月広島県中小企業診断協会の認定をいただき、新たに「地域活性化研究会」を立ち上げました。

時あたかも JR 西日本による芸備線の一部、庄原・新見間の存続検討が報道された。バス便などの代替手段を講じてローカル線を廃止すると、地方の過疎化に拍車がかかり、それで地方が復活した事例はない。このまま成り行き任せでいると、取り返しがつかない事態となり、ここは、やはり芸備線の存続に汗と知恵を出すべきであり、地方にて活動する我々の中小企業診断士の出番と思われる。

まずは、庄原市・安芸高田市に提言を試みたが、地域課題に取り組むのは、第一義的にその地域住民たるべきであり、自助・共助・公助に倣い、まずは近所力の結集・勃興により、各沿線町村固有の問題点・課題解決策の醸成が必要であり、そうした会議形式・合意形成に向けた診断士を交えての小集団活動の展開を提言したい。

当研究会は発足間もなくであり、そうした課題共有を図り、これからもメンバーの総意の結集により、更に、地域社会発展に貢献致したく、現在、参加者を募集中です。

今年度は隔月1回程度のズーム会議で討議を致したく、今年度参加者は会費も無料で、予定調和的な会議ではなく、発言自在な闊達な討議の場と致したく願っています。

NEW

リスクマネジメント研究会

代表 三村 雅彦

まずは「気づく」ことから

世の中はリスクに満ち溢れています。

例えば、今日の私を振り返れば、

- ・家を出て、大通りを横断するので、交通事故に遭わないか。
- ・台風が接近しているので、豪雨にならないか。
- ・路面電車が交通渋滞で遅れないか。
- ・電車内で新型コロナウイルスに感染しないか。

考えれば、考えるほどリスクがあふれ出します。



深堀りします。台風が1年間に首都圏を通過するリスクは、ほぼ100%です。しかしながら、台風で罹災する確率は0.3%程度なのです。リスクは正確に把握することが大切です。

一般にリスクへの対処方法は、

- ① 回避（例：台風が来ない場所に移住）
- ② 軽減（例：頑丈な家に建て替える）
- ③ 移転（例：保険に加入して、罹災したら保険金で対応する）
- ④ 保有（例：リスクを受け入れる）

とされています。

リスクマネジメント研究会は2021年に立ち上がりました。

今年度は、中小企業の方々に「リスクに気づいてもらう」セミナーを企画していきます。商工会議所や県の商工労働局、さらには他県の研究会、損害保険業界との連携も模索しています。保険は「小さな費用で大きな安心！」です。中小企業にもっと知ってもらえるよう、活動していきます。



一般社団法人 広島県中小企業診断協会

グループ研究会 令和3年 研究成果発表会

WEB
同時配信

2021年 9月4日(土) 13:20~16:40

広島県情報プラザ 第一研修室(広島市中区千田町3丁目7番47号)

- WEB (Zoom ウェビナー) 同時配信
- リモート参加できます

13:20~

開会挨拶(会長)

—————【成果発表】—————

13:30~

ニューロビジネス研究会

14:15~

資金繰り表研究会

15:05~

企業内診断士の会

15:50~

—————【新規研究会紹介】—————

地域活性化研究会

リスクマネジメント研究会

16:35~

閉会挨拶(副会長)

【申し込み締切】

8月27日(金)

ご参加を希望される方はメールにて、事務局までお申し込みください。



広島県中小企業診断協会 事務局
グループ研究発表会申込窓口宛



jsmeca34@sunny.ocn.ne.jp

【メール記載項目】

出席者氏名、診断士番号、
電話番号、メールアドレス、
参加方法(会場またはWEB)

リモート参加希望者には、後日メールにて詳細をご連絡いたします。

- 予定は変更する場合があります。最新情報は広島県協会ホームページで随時公表いたします。
- 新型コロナウイルス(COVID-19)の感染対策を行っております。ご協力をよろしくお願い致します。
- セミナー当日は必ずマスクを着用して下さい。発熱・咳等の症状が見られる場合は、出席をご遠慮下さい。
- 受講者配布用資料と映写資料は異なることがあります。予めご了承ください。

総務委員会

総務委員長 波出石 誠

1. 活動方針と委員会体制

総務委員会は、当協会の円滑な運営への寄与を活動方針とする。委員長に波出石誠、副委員長に谷本俊満、委員に児玉忠則、中尾友和、平田里文、松浦和夫、渡辺敏明（50音順）の7名体制（R3.5.22現在）で活動する。



2. 活動計画

総務委員会では、以下の活動を行う。

(1) 総会及び理事会の企画・運営

通常総会（5月リモート開催。懇親会中止）及び理事会（4月リモート会議、8月、11月、2月）を開催。

(2) 当協会及び中小企業診断士の認知度向上

「診断士の日」（11月4日（水））前後でリモートによる「経営相談会」等の実施を検討。

(3) 無料ビジネス相談会

広島市立中央図書館、福山市中央図書館で月1回、市民対象の「無料ビジネス相談会」を開催。相談員は当協会員が担当。会員への相談業務従事の機会提供のほか、経営相談業務を通じ、社会貢献を行う。

(4) 創業相談会

日本政策金融公庫、広島県信用保証協会、ひろしま産業振興機構、中国税理士会、広島司法書士会、広島弁護士会、広島県社会保険労務士会、及

び当協会の8機関主催による「無料創業相談会」を開催（秋季予定）。

(5) 中国ブロック連絡会議・勉強会

連絡会議は11月予定（本部、中国5県診断協会の連絡会議）。勉強会（施策等）は1月予定。

(6) 広島自由業団体連絡協議会

協議会は令和3年7月、令和4年2月に開催。よろず相談会は、新型コロナウイルスの影響で中止。

(7) 会員交流会

新型コロナの感染状況を把握しながら交流会を開催し、会員相互の懇親を図る。

(8) 会員の増強

理論政策更新研修時に勧誘パンフレットの配布、夏期及び冬期の診断士実務補習終了時等機を捉え動機づけなどを行う。

(9) その他総務事項の推進

広報委員会

広報委員長 小寺 崇之

1. 委員会体制

令和3年度の広報委員会は、委員長に小寺崇之、副委員長に古川佐千夫、委員に青谷智晃、三本木至宏、原信之介、本庄恭子、丸田稔の合計7名の体制で推進する。



2. 活動内容

広報委員会は、中小企業診断士の認知度向上および中小企業診断士の能力向上のために県協会が行う活動を支援することを目的とし、次の活動を行う計画である。

(1) 協会広報誌「診断ひろしま」の発行

診断ひろしまでは、協会・各委員会・研究会の計画や活動の紹介、スキルアップメニュー（診断助言事例、実務従事報告等）や診断士コミュニティ（随筆見聞録、書籍出版紹介、診断士リレー訪問記、新入会員紹介）等を掲載する。

本年度は、8月（本号）と1月の2回の発行を計画している。



(2) 広報活動の推進

協会の活動および取り組みについて、会員や各関係機関等に広く周知を図るため、その他広報活動を行う。

具体的な活動内容については今後の委員会にて話し合いを行い決定していく。

試験委員会

試験委員長 落野 洋一



今年度の試験委員会は昨年度に引き続き、中小企業診断士第一次試験、第二次試験（筆記・口述）の実施計画の立案、運営業務を執り行う。また、今年度は副委員長を2名体制にするとともに新たなメンバーも加わり、合計9名体制で実施する。（順不同、敬称略）

委員長	落野 洋一	委員	岩井屋 忠昭、植田 昌子、馬上 元彦、 若井 匡弘、牧野 恵美子、梅木 雄司
副委員長	松浦 由浩、木村 義洋		

令和3年度
中小企業
診断士
試験日程

1. 第一次試験

令和3年8月21日（土）、22日（日）
広島市中小企業会館
（広島県広島市西区商工センター1丁目14-1）

2. 第二次試験（筆記）

令和3年11月7日（日）

※第二次試験の試験会場については、現時点で公表が許可されていないため掲載しない

3. 第二次試験（口述）

令和4年1月23日（日）

診断実務委員会

診断実務委員長 落野 洋一

今年度の診断実務委員会は以下のとおり、新たな体制でスタートする。（順不同、敬称略）
活動内容については①中小企業診断士の登録要件である実務補習、②登録更新に必要な実務従事ポイント取得のための実務従事、の二つの事業を執り行う。

今年度も引き続き、実務補習・実務従事の指導員登録者の増員・育成を重点に取り組んで行く。また、実務補習を福山地区（広島市近郊以外）で開催することについても検討を行う。

委員長	落野 洋一
委員	野崎 義博、佐伯 昌之

令和3年度
中小企業
診断士

実務補習

実務従事

1. 夏季コース（5日間コースのみ）：RCC文化センター

第1回：令和3年7月2日（金）～7月12日（月）

第2回：令和3年9月17日（金）～9月27日（月）

2. 冬季コース（15日間コース・5日間コース）：RCC文化センター

第1回：令和4年2月4日（金）～2月14日（月）

第2回：令和4年2月18日（金）～2月28日（月）

第3回：令和4年3月4日（金）～3月14日（月）

10月の1回実施を予定

更新研修委員会

更新研修委員長 宮前 美方子

1. 委員会体制

令和3年度の更新研修委員会は、委員長に宮前美方子、副委員長に弓掛元、小地原良樹、委員に三宅慶子、金田賢二、中岡朗、森島重樹、藤川裕志、塩田睦大、金河哲成の合計10名の体制で遂行する。



2. 活動計画

更新研修委員会は、中小企業診断士の登録に必要な5年ごとの「知識の補充要件」の更新要件を満たす研修の実施を目的としている。受講者の要望を汲み取り、時世にあった研修を開催できるように、会場や講師など運営に携わる内容、委員会の協議により決定し、協会事務局と協力しながら運営・実施していく。

今年度は引き続き、新型コロナウイルスへの対策を講じながら、安心していただける研修の実施を目指す。

参加者の皆様には、検温やマスク着用・手指消毒等の感染対策についてご協力をお願いする。

3. 本年度の理論政策更新研修の予定

本年度は、4回の研修を予定している。

第1回	令和3年7月18日(日)	13:00 ~ 17:40 (定員 150 人) 「新しい中小企業施策」について	広島県JAビル 講堂 広島市中区大手町4丁目7-3
第2回	令和3年7月19日(月)	「中小企業の生産性向上支援」	
第3回	令和3年11月27日(土)	13:00 ~ 17:40 (定員 60 人) 「新しい中小企業施策」について 「中小企業の新事業展開支援」	福山商工会議所 101 会議室 福山市西町2-10-1
第4回	令和3年12月11日(土)	13:00 ~ 17:40 (定員 70 人) 「新しい中小企業施策」について 「中小企業の事業承継支援」	広島県情報プラザ 多目的ホール 広島市中区千田町3-7-47

インターネットでの受講申し込みについては下記を参照ください。

「理論政策更新研修ネット申込の手順」

<https://www.j-smeca.jp/attach/rironkenshu/mousikomitejun.pdf>

会員研修委員会

会員研修委員長 川角 栄二

1. 委員会体制

本年度の会員研修委員会は、委員長に川角栄二、副委員長に上垣内邦典、委員に大島季子、木村武則、鼠家正則、野崎義博、藤川裕志、牧野恵美子、山口卓の9名体制で活動を推進する。



2. 活動方針

中小企業診断士の資質及び技能の向上を目的とした活動を推進する。また、昨年度より開始した Zoom を用いたオンライン研修を本年度も引き続き開催する。本年度は計三回の会員研修会を予定しており、委員会を三つの班に分けてそれぞれの班が一つの会員研修会を企画から運営まで担当する。

3. 活動計画

第1回会員研修会

「小規模事業者に対する経営戦略策定の支援方法（仮）」

「新型コロナ対策資本金性劣後ローンについて（仮）」

日時… 8月28日（土）13:30～16:15頃

会場… オンライン開催（Zoom 使用）

講師… 西原 州康 氏（県協会副会長）、日本政策金融公庫

第2回会員研修会

「事業承継（仮）」

開催時期：11～12月頃を予定

第3回会員研修会

「先輩診断士に聞く顧客開拓の実務（仮）」

開催時期：2022年2～3月頃を予定

グループ研究委員会

グループ研究委員長 岡 佳弘

当協会のグループ研究会は、現在、14 グループ（うち東部地区3グループ）が、中小企業診断や支援等に係る専門的な技術・能力の向上に取り組んでいる。

グループ研究委員会では、こうした研究会活動の活性化を図るとともに、新規研究会の設立を促進することにより、会員相互の研修の場を提供し、当協会の会員増加に貢献していくことを目的に、次の活動を展開する。



1. 研究会活動のPR

研究会活動PR小冊子の掲載情報を更新し、協会HPで公開するとともに、様々な機会を捉えPRを実施する。

また、協会のHP上に研究会の「相談受付窓口」を設置し、中小企業支援機関や中小企業経営者等に対し広くPRを行う。

発表研究会

- ・ニューロビジネス研究会（成果発表）
- ・資金繰り表研究会（成果発表）
- ・企業内診断士の会（成果発表）
- ・地域活性化研究会（活動紹介）
- ・リスクマネジメント研究会（活動紹介）

2. グループ研究会連絡会議

研究会相互の連携を図るとともに、研究会活動活性化に向けた諸課題を議論するため、各研究会代表による連絡会議を開催する〔令和4年2月5日開催予定〕。

4. 調査研究補助事業（活動補助費の支給）

研究会活動の活性化を図るとともに、新規研究会設立意欲を高めるため、研究活動にかかる費用の一部を助成する。

3. 研究活動成果発表会

会員相互の研鑽の場を提供するとともに、研究会参加を契機とした協会への新規入会を促進するため、研究成果を中心とした発表会を開催する。

5. 研究活動成果の発信等

研究成果に関する論文について、随時協会HP上で公開する。

また、協会本部「令和3年度調査研究事業」「令和3年度企業内診断士におけるプロボノ活動実証実験事業」への積極的な応募を促す。

〔成果発表会開催概要〕

日時：令和3年9月4日（土）13：20～16：40
場所：広島県情報プラザ第一研修室
（WEB同時配信）

品質保証委員会

品質保証委員長 西村 英樹

品質保証委員会はこれまで受託委員会が築いてきた数々の実績をベースに、県協会が受託する事業の拡大及び受託事業の品質向上を目的に昨年度より活動を開始した。



委員会メンバー

黒川 睦郎	田辺 稔	西村 英樹
松浦 和夫	松浦 由浩	

活動方針

① 協会の受託事業の円滑な運営

受託事業の受入態勢・運用規定等の構築、申請書の作成等を行う。

② 新規受託事業の拡充

公的支援機関との連携維持・強化、金融機関・民間支援団体等との連携活動の新規開拓を行う。

中小企業診断士の認知度の向上や診断士の日のキャラバン活動等を通じた関係機関との連携を強化する。

③ 専門家登録会員への活動の機会配分と品質向上の実施

派遣専門家の研修機会の拡大（G研修委員会と連携）、成果物に対する品質向上への助言・是正等を通じた品質保証を行う。

活動計画

- (1) 「受託案件管理システム」の活用 … 受託事業において本システムを本格的に活用する。
 (2) 「診断品質向上マニュアル」の実施 … 本マニュアルに沿って以下の取組みを行う。

- ①受託案件の獲得
- ②専門家と受託案件のマッチング方法の確立
- ③審査体制の構築
- ④キャリアパス制度の構築（会員研修委員会と連携）

令和3年度 年間主要行事日程

日 付	行 事
4月18日(日)	第1回 理事会 (Zoom 開催)
5月22日(土)	通常総会
7月2日(金)～12日(月)	夏期実務補習 ① (5日間)
7月18日(日)・19日(月)	第1回、第2回 理論政策更新研修 (広島会場)
8月4日(水)	第2回 理事会 (Zoom 開催)
8月21日(土)・22日(日)	中小企業診断士 第1次試験
8月28日(土)	第1回 会員研修 (Zoom 開催)
9月4日(土)	グループ研究会 研究成果発表会
9月17日(金)～27日(日)	夏期実務補習 ② (5日間)
11月7日(日)	中小企業診断士 第2次試験 (筆記試験)
11月14日(日)	第3回 理事会
11月27日(土)	第3回 理論政策更新研修 (福山会場)
12月11日(土)	第4回 理論政策更新研修 (広島会場)
1月23日(日)	中小企業診断士 第2次試験 (口述試験)
2月4日(金)～14日(月)	冬期実務補習 ① (15日間・5日間)
2月16日(水)	第4回 理事会
2月18日(金)～28日(月)	冬期実務補習 ② (15日間)
3月4日(金)～14日(月)	冬期実務補習 ③ (15日間)

事務局からのお知らせ

専門家登録の案内および情報更新のお願い (正会員の方へ)

広島県中小企業診断協会では各支援機関より様々な中小企業支援事業を受託しております。受託した案件については、正会員の中で専門家登録をされている方に、随時依頼または公募を行っております。

まだ専門家登録をされていない方は是非と登録していただき、大いに活躍していただきますようお願いいたします。

また、すでに登録されている専門家の方は登録内容に変更のあった場合(経験年数の更新を含む)には随時更新していただきますようお願いいたします。

登録手順につきましては、事務局 (jsmea34@sunny.ocn.ne.jp) まで直接ご請求ください。

診断実務実習のお知らせ

日頃診断業務に携わる機会の少ない診断士の皆様向けに、診断手法・診断ノウハウの習得と登録更新に必要な実務従事ポイントの取得を目的とする「診断実務実習」を本年度も下記の通り実施いたします。詳細は県協会ホームページにてご確認ください。

◇実施時期及び期間： 10月、期間は6日間

実施日は原則として土日祝日(診断先企業の都合により、平日が加わる場合もあります)

◇受講料： 当会正会員・特別会員 42,000円(税込)、非会員 63,000円(税込)

編集後記

広報誌発行にあたりご協力下さった皆様に心よりお礼申し上げます。

これまでの本誌をご覧になられてきた皆様は既にお気づきかと思いますが、本号より誌面デザインを一新させていただきました。新しいデザインはいかがでしょうか。本年は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり誌面への掲載項目の検討や校正作業など従来であれば対面で委員会を開催して行っていた作業を全てオンラインで実施するなど、発行に関わるフローも大きく様変わりしました。そのため、広報誌発行時期も例年より遅くなってしまった事をお詫び申し上げます。

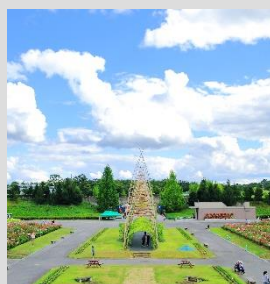
本年は県協会の総会もオンラインで開催されるなど、身の回りの行動様式が大きく変化していることを感じる毎日です。様々な業種の中小企業も経営スタイルだけでなく事業内容についても大きく見直しを迫られ、最近ではK字回復と言われるように上手くコロナ需要を取り込めた企業とそうでない企業との間に大きな企業間格差が生まれている状況です。苦境に立たされた中小企業を支援するために、私たち診断士自身が時代や環境の変化に適合し、変化していく姿を本誌を通じて感じていただければ幸いです。

広報委員長 小寺 崇之



表紙写真「国営備北丘陵公園の光景」

撮影：小寺崇之



340ヘクタール(東京ドーム72個分)の広さを誇る広島県最大級の国立公園。四季を平穩に楽しめる日常が一日でも早く戻ってくることを願っています。

一般社団法人広島県中小企業診断協会会報 第84号

発行：令和3年8月10日(年2回発行)

発行人：会長 江川 雅典 編集人：広報委員長 小寺 崇之

記事やお知らせ募集中！お気軽にご連絡ください

一般社団法人 広島県中小企業診断協会

Hiroshima Small and Medium Enterprise Management Consultant Association

〒730-0052 広島市中区千田町3丁目7番47号 広島県情報プラザ3階

TEL：(082) 569-7338 FAX：(082) 569-7336

E-mail: jsmecca34@sunny.ocn.ne.jp

www.hiro-smeca.jp

会員数

212名

令和3年7月時点
正会員・準会員・特別会員
含む。休会員は含まない

「診断ひろしま」の
バックナンバー公開中

